



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
 一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひの かふち

《学校だより》 第20号

令和3年1月29日発行
 湯河原町立湯河原小学校
 校長 北村 和裕

緊急事態宣言が再発出されてから3週間あまりが経ちました。コロナの感染が急激に収まるということではなく、多くの方にご来校いただく新1年生保護者説明会や授業参観を中止とさせていただきます。ブログでも掲載しましたように、学校では感染症予防として、手洗い、人との距離、マスク、消毒、換気、密集を避けるなどの対策を講じています。ご家庭でも、感染症対策やお子さんの体調管理などに引き続きご配慮いただきますようよろしくお願いします。



マスクをしながら体育の学習

力作揃いの「書き初め展」

冬休み明けにそれぞれの学年で行った書き初めの作品を各教室の廊下に貼り出し、書き初め展を行っています。本来ですと、1月19日に授業参観を行い、その時に子どもたちの作品をご覧いただく予定でしたが残念ながら授業参観は中止とさせていただきます。今回はご覧いただくことはできませんが、子どもたちの作品には苦労や工夫が見られます。1・2年生は、日頃から鉛筆を使って文字を書いています、字形を整えていつも以上に丁寧に書いている作品が多く見られました。3・4年生は、大きく長い条幅紙に太い筆



1・2年生の作品



3～6年生の作品

で書く経験はまだ少ないので、字の大きさや配列に苦労する子もいましたが、そこを頑張って書き上げた作品が並んでいます。そして、さすがは5・6年生。条幅紙いっぱいにバランスよく書き、1つ1つの字形にも気を配っています。

それぞれの子が思いを込めて書き上げた作品が展示されている廊下を通ると、心が躍ります。

「なぜ『あいさつ』をするんですか？」

2年生のクラスで道徳の時間に挨拶のことが話題になりました。「どうしてあいさつをするのか」についてそれぞれの考えを出し合い、この学校で一番多くあいさつをしている校長先生にも聞いてみようということになったそうです。ですので、そのクラスに行って話をしました。

「あいさつをお互いにするとその人と自分の気持ちがつながったように思えてきます。気持ちは見えないけれど、あいさつを交わすことで、気持ちという糸がつながるのです。そうするととても気持ちがいいのです。それに、毎日同じところに立ってあいさつをしていると、『今日はいつもより大きな声だな。何かいいことがあったのかな』『スキップしながら登校してきた。きっと楽しみにしていることがあるんだろうな』と思い、自分までうれしくなってしまいます。『今日は下を向いてあいさつをしているな。何か心配なことがあるのかな』と感じると、思わず『頑張れ』と声をかけたくくなります。」このような話を2年生にしました。

「おはようございます」たったこれだけの短い言葉です。しかし、毎日、全校の子どもたち一人ひとりと言葉を交わせるのは「あいさつ」のときだけです。ですから、朝のこの時間を大切にしています。



元気に登校する子どもたち

どんな状況でも

先週は給食週間でした。火曜日の朝に「健康委員会」の子どもたちが「3色レンジャー」として食べることの大切さを放送で伝えていました。その声は、生き生きと弾んでいて、まさに戦隊レンジャーそのものでした。私は、コロナでなければ、体育館で全校の人たちにそのカッコいい姿を披露できたのにと思いましたが、すぐにその考えを取り消しました。なぜならば、子どもたちの声からは、みんなに聞いてもらえてうれしいという前向きな思いが伝わってきたからです。できないからと嘆くのではなく、できることを精一杯やろうとすることが大切なんだと改めて気付かされました。放送室から出てくる子たちに、思わず「よかったよ」と声をかけていました。